



File 16

<http://www.townnet21.com/hitabuil/>

株式会社日田ビル管理センター

- 所在地：日田市玉川町3丁目624-22
- TEL：0973-22-2525
- 事業内容：ビル・住宅・店舗などの各種建築物の衛生管理、空調等施設設備の管理、飲料水設備の管理、事業系一般廃棄物の収集・処理
- 雇用人数：健常者104人 障がい者7人
- 沿革：1972年 有限会社日田ビル管理センター設立
- 1987年 高山英彦が代表取締役役に就任
- 1990年 株式会社日田ビル管理センターに組織変更
- 1996年 障害者雇用促進大会で労働大臣賞を受賞

バリアフリーの社風で 仕事を通して長所を伸ばす

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

知的障がい者5人、身体障がい者(心臓の障がい)1人、精神障がい者1人を雇用。20歳代から60歳代まで。知的障がい者の察からと、グループホームから通勤している人が各1人ずつ、他は自宅通勤。給与体系は健常者と区別がない。

■ どんな仕事をしているか

建物のクリーニング作業では、床のワックスかけ、ガラスふき、アパートの空き部屋の清掃作業など。また清掃後、会社に持ち帰ったモップ類の洗濯も。

事業系の一般廃棄物の収集業務では、市内を巡回する収集車に乗務して回収作業を担当。

事業全般の中で得意なことに健常者と一緒に取り組んでいる。



ビルのクリーニング作業

障がい者を雇用して良かった点

障がい者はできることと、できないことがはっきりしているため、周囲の社員がアドバイスをしたり、自然とサポートする体制ができてきた。

障がい者がいることで、自然に目配り、気配りをして、周囲の社員が教え上手になっている。

コメント

■ 障がい者雇用担当者

専務取締役 長 信明さん

周囲の人がサポートしていますが、任せで大丈夫な点は任せ、今以上のことができるよう、障がい者自身の努力を促すようにしています。一番大切にしていることはコミュニケーションをとること。雇用については頭から難しいと思わずに、まずは受け入れてみて、専門家などのサポートを受けながら取り組むといいと思います。



■ 現職障がい者

梅野 貴典さん

廃棄物の収集をしており、ごみを出し忘れている店に声掛けしたり、運転手が変わった日は収集場所を梅野さんが教えることも。「生ごみなどはリサイクルできるバイオマスの工場に運んでおり、やりがいを感じています」。



■ 現職障がい者

松本 剛さん

病院で使用しているモップや、ほかの社員が持って帰った掃除済みのタオル類を社内の洗濯機で洗っている。「仕事を覚えて、現場に出ることが目標です。」
入社当時は「次、何をしますか」が口癖だったが、現在は一日の仕事を把握し、自分で順番を決めて、仕事をこなせるようになった。



Let's Open up
the future together
OITA
2008

プロセス

STEP 1

■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

同社社長の高校時代の同級生が障がい者の自立支援活動をしており、知的障がい者の自立支援の合宿所開設の活動に携わるようになった。同社が事務局的角色を果たすようになり、障がい者の自立支援のために約15年前から同社で雇用を始めた。

その後も養護学校卒業生や知人の紹介を通じて、障がい者の雇用を増やす。アルコール依存症者を社会的自立支援のために雇用した経験も。

STEP 2

■ どんな問題点にぶつかったか

ハウスクリーニングなどは、依頼先に出向いて掃除するため、顧客から効率を疑問視されたことも。また仕事中でも、興味関心が他のものに移ってしまったり、感情が行動に出てしまい、掃除用具の扱いや掃除の仕方が雑になることもあった。時には甘えから「頭が痛い」と訴え、自宅に帰りたかった。

STEP 3

■ それに対してどんな改善策を取り、工夫をしてきたか

掃除などは本人の得意な仕事を任せ、繰り返すことで技術が向上。現在では契約先からかわいがる存在になっている。

仕事に問題になる行動が表れる場合には、そのつど注意したり、仕事に頻繁にトイレに行かないよう、休憩時間を利用する生活リズムを身に付けるよう指導したりした。

甘えが原因の体調不良は、すぐに自宅に帰す→病院で診察して寮で休ませる→現場で休ませ、帰さない。という対応に変えていった。

精神障がい者は資格試験に積極的に取り組んでおり、複数の資格を持って仕事にいかしている。本人の希望で勉強期間は長期休暇を認めている。

現在車いすの社員はいないが、研修に来たときなどは、社屋玄関の段差にスロープをつけるなど、随時柔軟に対応している。



洗濯担当の松本さん

社内環境

・社員旅行やボーリング大会、卓球大会などを通して、社員のコミュニケーションを図る機会を作っている。